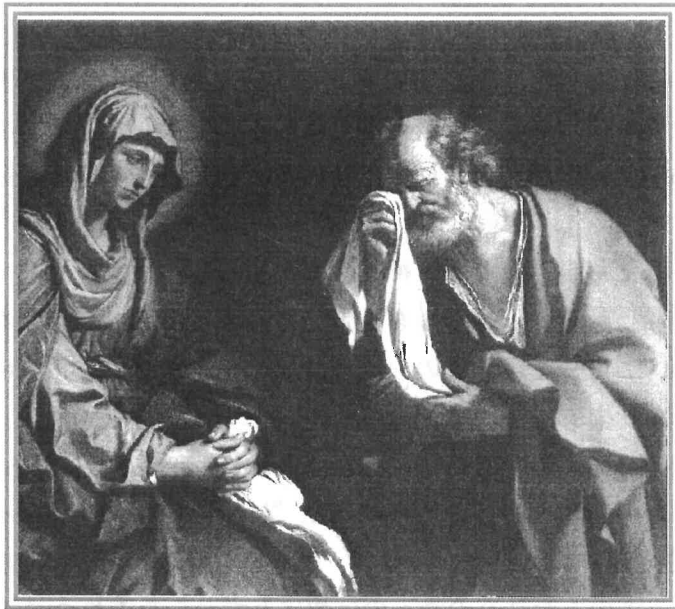


カルメル
霊性センターニュース



聖母マリアの前で裏切りを悔いるペトロ

219号

「十字架のしるしを受けた人」

カルメル会 中川 博道

「この十字架のしるしによってあなたをキリストに従う者の共同体に迎え入れます。キリストに学び、キリストの道を歩みなさい。」(洗礼入門式 式文)

私たちカトリック・キリスト者は、洗礼入門式に、このことばを通して、教会共同体に迎え入れられました。私たちとは「十字架のしるし」を付けられた存在です。

かつて、兄弟を殺害し自分の罪の深さにおののいていたカインも、主からしるしを付けられました。(cf. 創世記4章) カインに付けられた“しるし”は、二つの根本的な意味を持っていました。ひとつは、“兄弟を殺したしるし”であり、それは愛を否定し、愛そのものである“神を否定したしるし”でした。そして、同時にそのような者であるにもかかわらず、主はその者を何処までも守るという“主の愛のしるし”でした。

主の十字架は、私たちが“愛である神を殺したしるし”です。そして、同時にそれは、愛せない私、赦せない私、愛を否定してしまう罪人である私を何処までも赦し、あがない、ご自分を殺すもののためにいのちを差し出す“主の哀れみの愛のしるし”でもあります。

愛せない自分の限界にぶつかるたびに、私たちは、“それでも私たちに哀れみ、ご自分を〈愛なるいのち〉として与えられる主“に出会います。幼きイエスの聖テレジアは、「小さき道」において、自分の“小ささ”すなわち愛における不完全さに出会うたびに、主のあわれみの愛への信頼にみずからを委ねつづけました。

この四句節を「十字架のしるしを受けた人」として、世界中の洗礼志願者と共に、もう一度、新たに、イエスの道を学び、歩み始めることができますように。

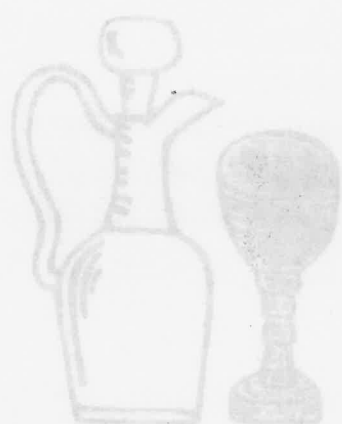
心の泉



2-1-10

2-1-10

泉の心



幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父 ocd

——現代の十字架の聖ヨハネ——

帰天40周年にあたって (4)



わたしが死ぬときは
目を見開いているでしょう

今 信仰のうちに 見ているもののほかに
一体何を見るでしょうか

——幼きイエスのマリー・エウジェンヌ ocd

これは、臨終の苦しみの中での幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父の言葉です。「・・・いま、大変苦しんでいてもこんなにも幸せです。この喜びにみんなは驚くでしょう。でもそれは当たり前のことです。おん父がおん子を苦しませたようにわたしを苦しませている、彼のように十字架に釘づけにされているのです。」そして自分はおん父とおん子とともに三位一体の交わりの中で養われ、その喜びにあずかっている・・・それで「こんなにも幸せ」なのだということです。淡々と話される言葉の深みは、カルメルの諸聖人たち（アヴィラのテレサ、十字架の聖ヨハネ、リジューのテレーズ、三位一体のエリザベット）が到達したあの「愛の山の山頂」の描写なのです！ 師は確かにそこへの道のりを著書『わたしは神をみたい』にまとめました。しかし、その道のりを自分自身が極めた二十世紀のカルメル会士です。

この「使徒、祈りの人」の最期は十字架上のキリストと同じでした。キリストとまったく一致して、彼はキリストのあがないの業に参加したのです。このキリストとの一致を師は特別の人のためとは思っていませんでした。洗礼を受けたすべての人々がいただいた信仰・希望・愛によって三位の神と関わり（祈り）、養われ、変えられて到達する理想であると強調していました。

全生涯、聖霊と聖母マリアとともにあった幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父は、復活の翌日の月曜日に復活の喜びにひたる命の聖母マリアを讃え、特にノートルダム・ド・ヴィ会の創立者としてこの日を祝うことを特に好んでいました。その愛に応えるかのように1967年復活の月曜日にあたる3月27日、聖母は神のみもとに師を召されました。

伊従 信子
ノートルダム・ド・ヴィ

聖書は、信仰を伝えるためのものでもなく、イエズス伝でもない。それは キリスト信仰の宣言である。このことが、却って、キリスト自体と、共にある実存状況を再現してくれる。

なぜなら、同じことが、時を距てて、同じくくり返されるなら、その意味は 空しくなってしまうからである。

写真よりは、絵のほうが、その作者の感動を伝えられるという意味で、カルヴァリオの写真よりも、福音の記述の方が 真実であるといえよう。

奇跡の記述又は事実だけを、福音から切り離して、「キリストは神であつたから」という前提だけを出してくるのなら、うけとる方がよほどバカだ。前提も、結論も、理性には拒否する権利だけでなく、義務がある。^{キリスト}真実に対し、忠実であるために。

奇跡は、歴史的事実的コンテクストだけが、それをうけとらせる。

“悟りなぞは くそ喰え”

悟りの奴隷 ということ、は 自己の奴隷に外ならない。

完徳の奴隷、聖徳の奴隷、があるように、神を知りたい、キリストを知りたい、・ ・ それも 知恵の奴隷であることが しばしばだ。

言葉はうけとり様にはちがいないが、本当に神のものになるというのは、神について何も考えられなくなることだ。

神を思え

神について思うな

自分の神ではなく

神の自分になることだ

ヘンリ・ナーウエンの 『旅路の糧』

(97)



生きていることを祝うこと

誕生日は非常に重要です。誕生日に、私たちは生きていることを祝います。誕生日に、人々は私たちにこう言います。「あなたがいてくれてありがとう」と。誕生日の贈り物は、家族や友だちの喜びのしるしです。私たちは彼らの命の一部だからです。小さな子供たちはしばしば、何ヶ月も前から自分の誕生日を楽しみにしています。誕生日は彼らにとって大祭日だからです。その日、彼らはみんなの注目の的となり、友だちがみんなお祝いに来るからです。

私たちは決して自分の誕生日や、自分に近い人々の誕生日を忘れるべきではないのです。誕生日は私たちが子供のようにしてくれます。それは、重要なことは私たちが何をし、何を成し遂げたかということでも、何を持ち、だれを知っているかということでもなく、私たちが今ここにいる(存在する)ことであることを思い出させてくれます。誕生日には、命を贈ってくださったことに感謝しましょう。

(0213)

命の無限の価値

或る人々は長生きし、或る人々は若くして死にます。長い人生は、短い人生よりよいのでしょうか。ほんとうに大切なことは、人生の長さではなくて、その質です。イエスは殺された時、三十代前半でした。リジューのテレーズは、亡くなった時、二十代でした。アンネ・フランクが命を落としたのは、十代でした。けれども、彼らの短い人生は、その死後ずっと実りを結び続けているのです。

長い人生は、それがよく生きられ、感謝と智恵と高潔さへと導かれるならば、祝福となります。けれども或る人々は、その年月がわずかであっても、ほんとうに十全に人生を生き得るのです。非常に多くの若者が癌やエイズで亡くなっていくのを見る時、私たちは次のことを、私たちの友である彼らに示すよう、できるかぎりのことをしましょう。すなわち、彼らの人生は、たとえ短くとも、無限の価値を持っているということ。

(0319)

くのり
九里 彰訳

『必要なことは、ただ一つだけ』(22)

ルドルフ・V・デ・スーザ OCD (カルメル会)

そのような場合、私たちは信仰の内に神の手が働いていることを見なくてはなりません。私たちが行きたくない方向へ神は私たちを導いてくださっているのだという確信が必要です。これを私たちは、「靈的暗夜」とか「靈的虚無」と呼んでいるのです。この暗夜や虚無は、神の近さと親しさの結果です。私たちがこの状態を「意識」するならば、それは私たちの魂にはかりしなれない助けとなることでしょう。大きな満足感や達成感を期待せずに、そこへ達するよう自分を訓練しなくてはなりません。この「楽しくない」、あるいは「満足感のない」状態すら、神から来ていると私たちは受け入れるのです。この態度は、おのずと信仰全体の内になされる祈りとなります。それによって、他の苦しみに満ちた困難な状況において、私たちは、私たちが浄化している神の手を見ることができるようになります。イエスご自身が、「私の神よ、私の神よ、どうして私をお見捨てになったのですか」と神に向かって叫んだ時、この種の状態を体験されたのです。とはいえ、「主よ、あなたの御手に私の魂をゆだねます」と言った時、イエスは心からの信頼をもって、自分自身を御父の手の中にゆだねる道を選んだのでした。

祈りにおいて進歩することは、まったく愛によってのみなされます。神との一致・交わりは、「生活と祈り」の結合であるべきです。祈りが生活から切り離された活動となる時、それは神との関係を効果的ものとはしません。そして、愛が欠けると、祈りにおける満足感や達成感がどんなに大きくても、それは、やはり神との成熟した関係を築くことはできません。生活と祈りは共に、愛によって浸透されていなくてはなりません。愛は両方にとって強壯剤のようなものです。こうして神との関係は「祈りの生活」と呼ばれるのです。

結局のところ、祈りとは、神が私たちを導き、運び、指導することを認めることです。この祈りの旅における唯一の指導原理は、「愛」です。愛が私たちの日常生活の中で神を具体的現実として見出すことを可能にしてくれるのです。愛が私たちを支配するようになると、私たちは単にいてだけで、さまざまなことを証しするようになります (cf. 1 コリ 13)。私たちのすべての病にとって、「愛」

はいやしの薬です。実際、祈りはレベルの低い私たちの愛を浄化し、より高い愛が私たちの生活の中に重要な位置を占めるようにしてくれるのです。私たちがほんとうに祈り、神が私たちを信仰の内に導くのを受け入れる時、私たちは愛するだけでなく、神ご自身である「愛」となるのです（1ヨハ4:16）。これに関連して、十字架の聖ヨハネは、どのように祈りの生活へ自分を調えるべきかについて、非常に具体的な助言を与えてくれています。

私は霊的な人に、神へと導く道はさまざまな思考や方法や手段や体験を必要としないということを知っていて欲しいと思う。たしかにこれらのものは初心者には必要であるかもしれないが、必要とされていることはただ一つである。すなわち、キリストのために苦しみに身をゆだね、すべてのことにおいて自分を無にしつつ、外的にも内的にも真に自分を否定することである。このような自己否定に修練を積むならば、すべてのものが、またそれ以上のものが見出され、成就されるのである。もしこの修練に失敗するならば、それが徳のすべてであり、根源であるだけに、たとえ天使のように高い思考や神との交わりを持つとしても、それ以外の方法では、どこにも行き着くことなく、堂々巡り以外の何ものでもない。

（十字架の聖ヨハネ『カルメル山登攀』2, 7, 8）

この助言は、祈りの中心が愛であって、神—この神のみが私たちのすべての望みを満たしてくれるのですが—を探し求めることであるという理解を助けてくれます。これは、方法や思考によって得られる現実ではなく、愛の具体的な行動によって得られる現実です。愛が具体的になる時、私たちは自分が小さくなるに依りて、他者の存在が大きくなることを許します。具体的な愛は、自己否定、自己譲渡なのです。

私たちは決められた祈りの時間を決して放棄すべきでも、その時間にのみ祈りを制限すべきでもありません。私たちが行なうすべてのことは、祈りか、祈りのあふれであるべきです。またそれは、測り知れない神の神秘への沈黙の歩みとなるべきです。この歩みは、私たちの生活の質によって確かなものとされます。神は愛で（1ヨハ4:16）であり、この愛は祈りの内に祈りによって理解されるのです。

（続）

くのり
九里 彰訳

四旬節第2主日

神のへりくだり

(創世記15:5~12, 17~18、ルカ9:28~36)

今日の第1朗読は、創世記のアブラム(まだアブラハムではない)に神が約束をする場面である。自分から生まれるものが後を継ぐと神から言われ、空を仰いで星を数えることが出来るなら数えてみよ、あなたの子孫はこのようになると聞き、アブラムは信じた。さらに、あなたにこの土地を与えと言われた時、アブラムはしるしを求める。そのとき神は、家畜を真つ二つに裂くように言い、やがて日が沈み、暗闇に覆われた頃、煙を吐く炉と燃えるたいまつが二つに裂かれた動物の間を通り過ぎる。そして、神はアブラムと契約を結んで、「あなたにこの土地を与える」と言われた。

煙を吐く炉とたいまつは神を現している。裂かれた家畜の中を通るといのは、エレミヤ書の34章にも出てくるもので、契約締結の際の儀式であった。裂かれた家畜の間を歩くことで、契約を破ったらこの家畜のようにされてもかまわないという意味を象徴的に現しているのである。

ここで注目すべきことは、アブラムが裂かれた動物の間を通らずに、神だけが通った事だ。人間は弱いものであるから、自分の言葉に完全な責任を取ることが困難である。だからご自分を偽ることが出来ない神、全能の神が通ったのである。人間に通ることを求めず、神ご自身がお通りになった。なんという神の愛、神のへりくだりであることか。神が自ら身を低くして、人間が出来ないことを引き受けて、行なってくださった。

この神のへりくだりは、イエズス・キリストにおいて最もよく現れている。キリストは、神の身分でありながら、神と等しいものであることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられた。パウロがフィリピン人への手紙に書いてあるとおおりである。キリストは人間の姿で現れ、へりくだって死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順であった。神であるキリストが、仮に人間の姿をとったのでなく、完全な人間となったのである。罪を犯さなかったという以外私たちとまったく同じ条件で御父の御旨に完全に従い、十字架への道を歩まれた。

キリストと共に行動していた弟子たちは、キリストが普通の人間でない、神的な何かを持っていると感じていたことであろう。しかし、キリストが神そのものであると信じていたかどうかは疑問に思う。おそらくキリストの神性を悟ったのは復活の主に出会ってからだったのだろう。しかし、弟子たちが復活したキリストを生前のイエスと同一の方であると認めるためには、生前にご自分の栄光の姿を垣間見せておく必要があった。それが今日の福音の御変容である。御変容は第1回目の受難予告の直後になされた。死を予告され、動揺した弟子たちの心を静め、将来の受難と復活に備えさせた。しかし弟子たちにはこのときその意味はまったくわかっていなかった。仮小屋を三つ建てましょうと言うペトロの言葉がそれをよく表している。御変容は三人の弟子たちの心に強く印象づけられ、その深い意味がわかる時まで記憶の奥底に留められていたのである。

(新井)

四旬節第3主日

「悔い改めなければ滅びる。」

(ルカ 13・1～9)

ある時ひとりの金持ちがある大工の乏しい状況に気づきました。その金持ちは大工に一軒の素晴らしい家を建てるように頼みました。「わたしはこれを理想の家にしたい。最高の材料だけを用い、最高の腕の職人だけを雇いなさい。お金に糸目をつけないで……。わたしは長い旅に出かけるが帰ってきたときには出来上がっているように。」

大工はこれをお金儲けのよい機会だと思いました。彼は材料をけちり、腕の悪い職人を雇い、職人の出来の悪さをペンキで隠し、出来る限り経費を切り詰めました。金持ちが戻ってきたときに大工は建てた家の鍵を渡して言いました。「わたしはあなたのご命令に従いあなたがおっしゃった通りに建てました。」「よろしい。」と金持ちは言いました。それからその鍵を大工に返しながらかきました。「この鍵はあなたのものです。わたしはあなたのためにこの家を建ててもらいました。あなたとあなたの家族が住むようにわたしが贈ってあげたのです。」この大工はその後何年もの間ずっと自分自身の良心に従わなかったことを後悔し続けました。神はわたしたちに何でも最上のものを与えてくださりたいのです。

今日の福音の中でイエスは二つの死の訪れについて話されます。一つはピラトがガリラヤ人に与えた罰である死、もう一つは事故による死です。ユダヤ人たちはこれらの死はその人々の罪深さによるものと信じていました。けれどもイエスは話を聞いている人々に、罪を悔い改めなければみんな滅びると警告なさいます。わたしたちは皆罪びとで回心する必要があります。死は何時訪れるかわかりません。ですからいつも死の準備をしていなければなりませんしそのために今すぐ回心する必要があります。神は今日の福音に語られている、実のならないいちじくの世話をする園丁のようにとでも辛抱強く親切に人を扱ってくださいます。

四旬節は回心するのにふさわしい時です。この期間、神の並外れた愛と憐れみがイエスのご受難と十字架上の死そしてそのご復活を通して示されます。このことを深く黙想するにつれてわたしたちは神を愛するようになっていくでしょう。わたしたちはみんな回心の必要があります。主は慈しみと憐れみの内にわたしたちに近づいてくださいます。主によって回心させていただけるように自分自身を準備しましょう。「悔い改めなさい、」と主は言われます。「神の国はすぐ近くにあるのだから。」

四旬節第4主日
放蕩息子のたとえ

(ルカ15:1~3、11~32)

今日の福音は有名な放蕩息子のたとえである。私の最も好きなたとえだ。十年近く前、イタリアにいたとき、イタリア人の信徒たちと話をしたことがあった。彼らは法華經を知っていたので、法華經の長者窮子のたとえと放蕩息子のたとえを比較して、私がキリスト教のどういうところに惹かれたかを説明しようとした。

長者窮子のたとえは長くて複雑であるが、一見して放蕩息子のたとえとよく似ていることがわかる。一人息子が家を離れ、流浪の旅をする。50年の歳月が流れた。この間、父は子を探し回ったものを見つけることができず、ある都市に住み着いて大富豪となっている。しかし父の心はいつも行方不明になった息子を求めていたのである。そういうある日、偶然息子が父の家の門前に立ち、父を見た。息子は王のような暮らしをしている人が、父とはわからず、自分のような卑しい者のいる場所でないと思い、走り去る。一方、父はすぐに息子だと気がつくのであるが、息子が心まですっかり卑しくなっていると見抜き、父親だと名乗らず、息子を肥汲みとして雇う。自分も肥汲みの格好をして息子に近づき、親しく教え諭す。そして徐々に重要な仕事をさせるようにし、責任を持たせ、ついには全財産の管理を任せるに至る。しかし息子はまだ主人が実父であることに気がつかない。この間、実に20年が過ぎ去っていた。父に死期が迫ってきた。父は大勢の親族、王や大臣を呼び集め、皆の前でこの男が実の息子であるとはじめて打ち明け、全財産を譲ると宣言する。

このたとえは、仏となるために人間が長期間修行しなければならないことを前提としていて、いかにも仏教的である。一方放蕩息子のたとえでは、父のもとに帰ろうと決心して帰ってきた下の息子を、父がいち早く見つけ、息子として受け入れ、大喜びして宴会を始める。つまり神の赦しが無条件であるとよく現されている。長者窮子のたとえでは、息子が父のもとを離れた理由が書かれてなく、あるいは息子の意志でなく離れたかもしれないのに対し、放蕩息子のたとえでは息子ははっきりと自分の意志で父から離れ、父から与えられた財産を放蕩で使い尽くすという悪い事をしたのに無条件で赦されている。

私は仏教を信じる二人の若いイタリア人に、キリスト教のすばらしいところは、悔い改めさえすれば神が無条件で赦してくださるところにあると思うと説明した。ところが彼らは、私たちは努力したいのだ、何もしないで赦されるというのは良くないと答えた。まったく予想もしなかったことを言われたので返答に窮してしまっただけをよく覚えている。私の貧しいイタリア語のために実りある対話とはならなかったのだが、彼らのこの言葉だけは印象深く残った。

今から考えると、彼らの取り方は仏教の性格に根ざすというより、若さゆえではないかと思う。若いときは成長したいし、またがむしゃらに自分を伸ばさなければならぬ時でもある。そういう時期に、無条件の赦しのありがたさはなかなかわからないのであろう。自分の力で自分を救うことは出来ないとわかり、自力の限界を知る体験があってはじめて神の愛のすばらしさが味わえるのではなからうか。(新井)

四旬節第5主日

「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。・・・」

(ヨハネ8:1～11)

今日の福音で、わたしたちは姦通で捕まった女の話を読みます。イエスはこの女をゆるします。イエスは彼女に「行きなさい。これからはもう罪を犯してはいけない」と命じます。ゆるしの秘跡で、司祭は同じ言葉を言います。わたしたちは、どのようにこの勧めを受け取り、実行するでしょうか。

姦通は常にまわりの人たちの話題となり、スキャンダルとなります。それは、道徳的退廃を表し、通常受け入れられる標準的に行いを脅かします。しかし、今日の福音の中で、神が容易に罪をゆるしてくださり、こわされた人生を結びなおし、神との友情をとり戻させてくださることに気づかされます。今日教会は、わたしたちが罪を犯した女性に注意を向けるように求めています、それはわたしたちもまた、神のみ前に罪を犯して立っているからです。イエスがこの罪を犯した女性に対してしてくださったことを、わたしたちの場合にもして下さるといふこと、これはすばらしい知らせです。この出来事は、切り離されたひとつの事柄ではなく、罪人に対してイエスが示して下さる尽きることのない慈悲とあわれみの例のひとつです。わたしたちが自分の罪に対して悔い改めの気持ちを表すと、イエスはわたしたちの罪をゆるして下さいます。罪がささいなものだということではなく、神はその寛大さにおいて罪人にゆるしを与えて下さるといふことを知ります。イエスによって示される神のあわれみに匹敵するものではありません。イエスは、カルワリオへの道を十字架を担って歩みそして十字架につけられたとき、その肩にわたしたちの罪の重荷を担われたのです。

四旬節は、自分自身をしっかりと見つめ、自分の弱さを認め、新たに神との友情を始めるときです。神は、わたしたちの罪を永久に残そうと岩の上を書くようなことはなさいません、あわれみによって吹き飛ばすようにちりの上に書かれます。神は、ゆるしの秘跡においてわたしたちの罪をゆるし続けてくださっています。神は生命の水を飲むようにわたしたちを呼び戻されます。主のところに戻る準備はできていますか。最も大きな罪は姦通ではなく、神の愛に対して心を閉じていること、傲慢や自己満足で自分自身に閉じこもり、他人から遠ざかっていることです。

神と親しくなりたいならば、全ての友人関係と同じように、わたしたちは絶え間なく友情を修復し続けなければなりません。主に完全に応えていこうとするとき、その途中にあるこれら全ての障害をとり除いていかなければなりません。四旬節は、新たな始まりを示します、始めるに遅すぎることはありません。

(Sr. Paulina)

…ケリトの水にうるあされて…

カルメルの聖人たちの祈り

14. コンピエーニュの播者聖アウグスチヌスのテレジアと同志殉教者 — その2

フランスのコンピエーニュに、恐怖政治の時代を生きた16人のカルメリットがいた。この共同体は、テレジア的精神に対する熱心さと忠実さで知られていた。戦争が起こった時も、彼女たちは世間の服を身につけることを望まず、修道服を着用し続けることを選んだ。多くの人々による流血の恐怖を目にしたが、その終結を見ることはなかった。聖アウグスチヌスのテレジア院長の励ましによって、彼女たち全員が、日ごとに奉獻を行い、平和をもたらすために自らをいけにえとして捧げた。

獄中、彼女たちは落ち着いた信頼と同時に平安の模範であった。喜びを振りまき、殉教を待ちながら歓喜の歌を作りさえたのである。1794年7月17日、16人全員が、パリの国民広場でギロチンにかけられ、イエスへの愛を歌いながら、世を去った。

— 祈り —

私たちの心に喜びをお与えください
栄光の日が、今ここに来たのです！
弱さのすべてを払いのけましょう
今、十字架が間近にあるのを見ることができのですから！
勝利のために準備しましょう！
私たち一人一人、征服者として前進しましょう！
十字架の下に神の偉大な旗印があります
皆、走りましょう。皆、栄光に向かって飛び行きましょう！
熱誠を燃え上がらせましょう！
神の御名において、体を差し出しましょう！
上りましょう、上りましょう、断頭台の上に！
私たちは、神に勝利を差し上げるのです！

絶えず幸福が招いています
フランスの全カトリック信者を
殉教者のたどる小道を進むようにと
他の多くの人の道もそこに向っているのです！
殉教者たちは、受難に向かって進みます
イエスがなされたように
私たちの王が後に続いてくださいます
キリスト者としての信仰をもたらしましょう
神の義をあがめましょう！
熱意ある司祭たち
すべての信者たちが
すべての血によって、信仰を固めますように
彼らと同じように死なれた神への信仰を

偉大な神よ、あなたは私の弱さのすべてを見ておられます
熱心さはあっても、やはり怖いのです
今、熱誠が、確信に満ちて私を導きます
おお、あなたの御助けを与え、私の近くにいてください！
死をもって支払わなければならないということを思うとき、
あなたの御目から私の貧しい心を隠すことはできません
私の慰めとなってください、私の支えとなってください
そのとき私は言いましょう、おいでなさい、出発しましょうと！
今、犠牲を急いでください！
あなたは、一瞬で私を変えることがおできになります！
おお主よ、おお主よ、遅れないでください
今日、私の心に喜びをお与えください

私たちの模範である聖なるおとめ
すべての殉教者たちの尊い元后
どうか、私たちの大きな熱意を支えてください
私たちの望みを清め、私たちを全く純粋で清い者にしてください
私たちの愛する国、甘美なるフランスを、今もお守りください
天の高みから、今、あなたの助けのすべてをお与えください
あなたからいただくすべての恵みの効果を
私たちが皆、ここで、感じますように
私たちはあなたのもの、あなたの御力を待っています
今このとき、あなたに服し、従います
私たちの神であり、私たちが信じる王であるイエスのように
私たちは死ぬことでしょう

おお神聖なるマリアよ、ご覧ください
あなたのものである私たちの聖なる熱情を
私たちに命を与えてくださったのは神ですから
この死を、自分のものとして受け入れます
私たちの優しい母として、ご自身を表してください
私たち皆に、イエス・キリストをお与えください
この世の命を去るときに
主の大いなる愛の火と共に
主の霊によって命を与えられ
天上の諸聖人たちに加わることができるように
そして、天の岸辺で歌うことができますように、歌うことができますように
今までにもまして、主のいつくしみのすべてを！

— Sr.ジュリー・ルイーズの祈り —

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ベニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., ホームページ <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(1列17:3-4)」ということばに由来しています。

(東京カルメル会誌・編)

新しい人

新春1/14のミサ典文のうち、第一朗読（イザヤの予言62、1～5）を読んで噛みしめているうちに、心の底から、何か生命^{いのち}が突き上げてくるような気がして、元気が満ち溢れる思いがしました。でもこの種の感覚は今日が始めてではなく、温度差こそあれ、時々私の心を満たしてくれるものなのですが…

1)シオンのために、わたしは決して口を開さず エルザレムのために、わたしは決して黙さない。彼女の正しさが光と輝き出で 彼女の救いが松明^{たいまつ}のように燃え上がるまで。

シオンやエルザレムでなく、いつも私のことを計って下さる主(神)、私は毎日の生活の中で、毎瞬毎時、愛の神にお応えしているのでしょうか？といっても目前に展開する人は皆人間。しかも性格の相性があったり、そうでない人々の中で。キリストの苦難や受難は、それらをそのまま受けて、私達人間のために、父なる神に返されたのです。その救いを、私は果たしてほんとうにいただいて、生きているのだろうか、よく思うのです。

2)諸国の民はあなたの正しさを見、王はすべて、あなたの栄光を仰ぐ。主の口が定めた新しい名をもってあなたは呼ばれるであろう。

そう、キリストの受難と死は、復活への順路でした。それなら私が今現在、人間の中にあって、どんなに善人として振舞っていても、ある時はキリストが蒙ったと同様の(多分より小さいでしょうが)受難が来るのは必然のこと。だからそれをキリストの受難と死に直結しないと、キリストの死を、まるで観客席からスクリーンに映る受難劇を、ただ客体としてだけを見つめるようになってしまうのです。だから痛みはあくまでも自分自身の痛みであって、私は相変わらず、新しい名のキリスト者と呼ばれないのです。

3)あなたは主の御手の中で輝かしい冠^{かんむり}となり、あなたの神の御手の中で王冠となる。

私の毎日の営みは、それが連続しますと人生になります。ところが人生、そんなに簡単に栄光は勝ち得られません。ではこの営みの中で起こる不都合に際して、私はそれを、どれだけキリストの受難と十字架の死に直結させているのでしょうか？それはどんな気持ちになるのでしょうか？いえ、それは事前に計算しても分からないのです。すべて体験だけがこの栄光を感じさせてくれるものです。

4)あなたは再び「捨てられた女」と呼ばれることなく、あなたの土地は再び「荒廃」と呼ばれることはない。あなたは「望まれるもの」と呼ばれ、あなたの土地は「夫を持つもの」と

呼ばれる。主があなたを望まれ、あなたの土地は夫を得るからである。

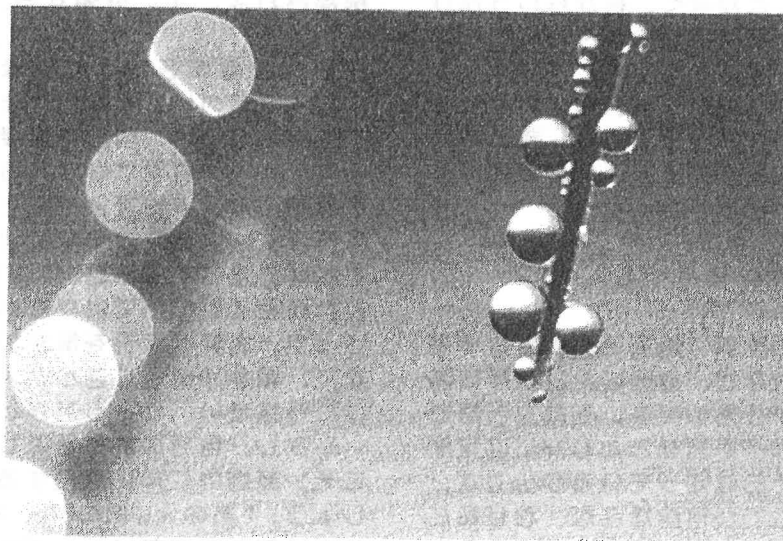
上述の意味で、神の愛・栄光を体験し、感じさせて頂いた人のみが、この世的な評価・自己存在の否定・うっとうしい心の暗夜状態の霧から晴れて、(現実の環境は以前として消えずに存在していたとしても)ほんとうに軽やかな、明るい、ピチピチとハリのある心境に変化するのです。

5) 若者がおとめをめとるように、あなたを再建される方があなたをめとり、花婿が花嫁を喜びとするように、あなたの神はあなたを喜びとされる。

こうして自分自身は、変身というか、生まれ変わりというか、「神の息吹きを一吹きも逃さず呼吸して、神のみ栄えを生きていく人」になっていきます。人の目には、それ程見えなくても、神の御目にはどれ程素晴らしく輝いて見えることでしょう。

神に感謝！ Deo Gratias！！

お告げのフランシスコ姉妹会 Sr. 熊田 照子



いのちの言葉 2月

祝福されよ、主に信頼する人は。

(エレミヤ 17・7)

私たちにできる最も賢い生き方、それは、命を与えてくださった神の御手に自分の生活を委ねることでしょう。何が起ころうとも、私たちは、神には完全な信頼を置くことができます。神は愛でおられ、私たちの善を望んでおられるからです。

預言者エレミヤは、神を信頼する人への「祝福」を宣言しながら、聖書の伝統の中で大切にされている一つのイメージを取り上げています。豊かに水をたたえる小川のほとりに植えられた木です。この木は、暑さに襲われることがなく、根からしっかりと養分を摂り、葉はいつも青々として、豊かな実を結びます。

一方、神以外（権力や富、有力者とのつきあいなど）に希望を置く人は、荒地の裸の木にたとえられています。その木は成長できず、実もつきません。

祝福されよ、主に信頼する人は。

人は、不治の病気、返済不能の借金や差し迫る死の危険など、極限の絶望状態に陥る時、神に向かうものです。それも当然でしょう。人には不可能なことも神には可能であると、私たちは知っているからです。では、神にすべてが可能ならば、なぜ私たちは人生のどんな時にも神に助けを求めないのでしょうか。

今月のいのちの言葉は、神との絶え間ない交わりを生きるよう招いています。常に神の助けが必要な私たちは、いろいろ願うこともしますが、神との交わりとは、単なる願いごとをはるかに越えるものです。神への信頼は、その愛を信じるころから生まれ、神と信頼関係を築く人は「祝福され」、喜びと充実した人生を味わいます。

神は近くに来てくださる方です。私たち自身よりも、私たちのことをよく知っておられます。共に歩んでくださる神は、私たちの心臓の鼓動一つ一つまでご存知です。喜びも苦しみも、心配も計画も、神と分かち合うことができます。私たちは、深い暗闇と困難の時にも、一人ではありません。私たちは完全に神に信頼することができ、それは決して裏切られることがないでしょう。

祝福されよ、主に信頼する人は。

神への信頼を示す特別な方法として、「二人三脚の仕事」があります。

時々私たちは、自分が直接何もしてあげられない人や状況に心が捕らわれてしまい、その時の神のみ旨をよく果たせないことがあります。自分にとって大切な人が苦しみや試練に遭っている時、病気でいる時には、どれほどそばにいてあげたいと思うことでしょう。大変な状況を解決してあげたい、また、戦争や飢えに苦しむ人々、難民を助けに行きたい、と願ったりします。

しかし、自分の無力を感じます。その時こそ、英雄的に神に信頼することが必要でしょう。「あの人、あのケースのために、自分には何もできない…。でも神よ、私は今この瞬間にあなたが私に望まれることを果たします。よく勉強し、よく働き、よく祈り、よく子供の世話をし…。あなたが、あの大変な状況を解決し、苦しんでいる人を慰め、問題を解決してくださると信じます」と。

神との完全な交わりの中で、神と「二人三脚」で働くことです。そのために私たちは、神がご自分の子どもに対して持ってお

られる愛を深く信じる必要があります。私たちがこのように生きるなら、神も私たちを信頼してくださるでしょう。

この相互の信頼からは、奇跡が生まれます。私たちの手の届かないところで、神が本当に働いてくださり、しかも私たちよりずっと良い形で物事を進めてくださるのに気がつきます。このような英雄的信頼の行為は、報いを受けます。物事の一面だけを眺めて生きていた私たちの生活には、新たな次元が加わります。私たちは、無限なる神との交わりの中で生きているのを感じ、その経験を通して、自分が本当に全能の父なる神の子どもなのだ、とはっきり自覚することができるでしょう。

祝福されよ、主に信頼する人は。

リーナは、老齢のため車椅子生活を余儀なくされていますが、こう語ってくれました。

「しばらく前からいのちの言葉を送っていた友人から電話がありました。私と同様年若い彼女は、『弟が瀕死の状態だが、どうすればいいかわからない』とってきました。ちょうど休暇の時期で、世話をしてくれる人を見つけるのが難しい上、弟さんは数年前からホームレス状態になっていました。

私は彼女の苦しみを自分のことのように感じながらも、自分は彼女と同じように無力だと思いました。遠い所に住み、車椅子生活をする私に、いったい何ができるでしょうか。せめて慰めの言葉をかけたいと思いましたが、それすらうまく口から出ず、祈ることを約束するのが精一杯でした。

夕方になって、同じ家に住む人たちが仕事から戻って来ました。私たちは、この状況を共に神にまかせ、恐れと不安を神の御心に委ねました。

夜中に目が覚めた時、ホームレスの彼が一人で死にかけている姿が目に見えました。再び眠りにつきましたが、また目覚めてしまい、そのたびごとに私は御父に言いました。『彼はあなたの子です。見捨てないでください。あなたが彼のことを考えてください』と。

数日後、友人からまた電話がありました。

彼女は先日の電話で私と話をした後で、大きな平和を感じたと言ってくれ、こう続けました。『弟は病院に運ばれて、痛みを和らげる手当ても受けられたのよ。この苦しみを通して、彼は清められ、天に旅立つ準備ができていたわ。ご聖体をいただいて、おだやかに息を引き取ったのよ』と。

私の心には、感謝と神への大きな信頼が沸いてきました。」

ファビオ・チャルディ神父
ガブリエラ・ファラカラ

(2007.1)

★ いのちの言葉はその月の主日のミサで朗読される聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

ある日私は、たまたま一緒に居合わせた女性に目が留まりました。その表情から彼女が苦しみを抱えているのがわかり、神様が出会わせて下さった隣人だと感じました。さり気なく会釈すると彼女の目から涙がこぼれ落ちました。私は「主よ、彼女が“あなた御自身の愛”に触れることができるよう、私を道具にして下さい」と祈りました。彼女の心に土足で入り込むことがないように、無になって彼女の手をそっと握っていました。しばらくして、彼女は少しずつ苦しみを語ってくれました。そして「ありがとうございました。心が落ち着きました」と言ってくれました。私は子供を幼稚園まで迎えに行く時間になり、出発しなければなりませんでしたが、神様に信頼を込めて「今、心から、次の瞬間にあなたが望んでおられることをします。あなたがこの女性を支え、助けて下さることを私は信じています」と祈りました。心が大きな平和と喜びで満たされるのを感じました。(E)

フォコラーレ:

連絡先:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

いのちの言葉のホームページ

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/>

このちいさな群れをどこへ？——セワ・ケンドラの日々 ③ スッカ

(セワ・ケンドラは、ネパール王国ポカラにある知的障害者通所施設。

通称大天使ミヤを中心とする仲間が日本から支援し、現地のスタッフが運営しています)

バレシューズに運動靴、いりこ、あらら、それにお金まで...

大天使ミヤが2月14日からネパールに行くことをブログで取り上げてきた。

現地の責任者ラム・ナラヤンさんに「持ってきて欲しいもの」を聞く。

足の甲がゴムの上履きのような靴、

いりこ(煮干:セワのみんなも、これが大好きなのだ) それらがあれば..と彼は言う。

靴に関しては、スッカは最初、どこかの学校で年度末に出る「卒業生の捨てていったもの」でも
お願いしてもらおうかと考えていた。

ところがここからが不思議。

セワ・ケンドラが開所前からご協力くださっていたさんがブログを読んで

過分の靴代をご寄付くださり、新品が買えることとなった!!!

時を同じくして、やはり最初から応援してくださっているOさんが、「棚からぼた餅のように降ってきた
お金だから」と、ご寄付を届けてくださった。

そしてアカナ会の口座の記帳にいくと、いつものように

MさんやYさん、Gさんたちがそっと入金してくださっている.....

ネパールでの活動歴の長い医師とそのお知り合いからも...

ラム・ナラヤンさんからイリコを頼まれていることなどご存じない支援者のおじさまからも
「イリコ」と古靴の申し出が...

こんな時、スッカは「あ、神さまが働いてくださっている!!!」と思う。

必要はまかなわれる！！！！

いつも大天使ミヤの言っているとおりだ！

歩きにくそうなチャッパル(ゴムぞうり)をペタペタ鳴らして歩いている
あの子たちが、「足の甲までピッタリ包む靴」をはける！！！！

足にマヒのある子が多いので、これは本当に必要なものだったのだ。

これで遠足の山歩きも大丈夫だ！！ ポカラのでこぼこ道も歩きやすい！！

セワ・ケンドラを支えてくださっている方々の祈りと具体的な支援で、

今日もセワ・ケンドラのみんなの笑顔が守られている。 感謝！！！！

スタート当初は、大天使ミヤが「費用は自分で背負う」覚悟で始めた。そこへスッカが押しかけて

「費用の一部と事務をやるよ！」と乗った。あれから四年近く、少しずつ少しずつ応援して下さる
方が増え、セワ・ケンドラ・ファミリーができてきた。心の通い合う仲間。

ささやかな、ささやかな「テーブルからこぼれるパンくず」で養われている小さな群れ。

いつも、いつも、必要以上に主はすべてを満たして下さった。

小さな家を借り、何も無い中でスタートしたセワ・ケンドラ。

最初から今に至るまで、「たっぷりとおるのは笑顔！！」

日本で支援する私達も、何も持たない者の群れ。

でも、たじろがない。「私達にないものは、主が補って下さる」

かも、お金も、人脈も、地位も、何も無い。でも、いつも必要はまかなわれ、

「主が働いていて下さる」ことを実感できる日々が続く。 神に感謝！

URL: 「セワ・ケンドラの日々 みんな生まれてきてよかったね！」

<http://sewa.pokhara.jp/>

祈りにこした

蛭田幼一

人の子なら誰でも

仕事ができなくなる不安を持っているだろう

食べていけるかどうか 人はみな 考えながら

一所懸命生きているだろう

そういう患苦しさがおそってへるとき

私は祈る

たとえ本当の祈りではなくても

「空ひやの手」であったとしても

世界が騒然としてきたな いや前から

それで 私が暢気なのかな

あのうはしりかた

あまじま祈らなくて



十字架の聖ヨハネこぼれ話（1）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス OCD

「なぜ泣かれているのですか。兄弟よ、私が泣いているのは、…」(その1)

十字架の聖ヨハネは、1578年の8月中旬、9ヶ月間の幽閉の後、トレドの牢獄から逃亡します。

そのあと少しして、カルヴァリオ修道院（ハエン）の副院長に任命され、そこに同年10月か11月に着きます。25人から30人の修道士が貧しさと禁欲の隠遁生活を送っていましたが、それは厳しいものでした。食事の献立は当惑させるようなもので、ミガスと一椀の野草のスープだけでした。ミガスとは、「粉々に砕かれたパンくずやパンの切れ端の一種の田舎風の煮込み料理」のことでした。何ヶ月も魚一匹、台所にも食堂にも姿を現しませんでした。

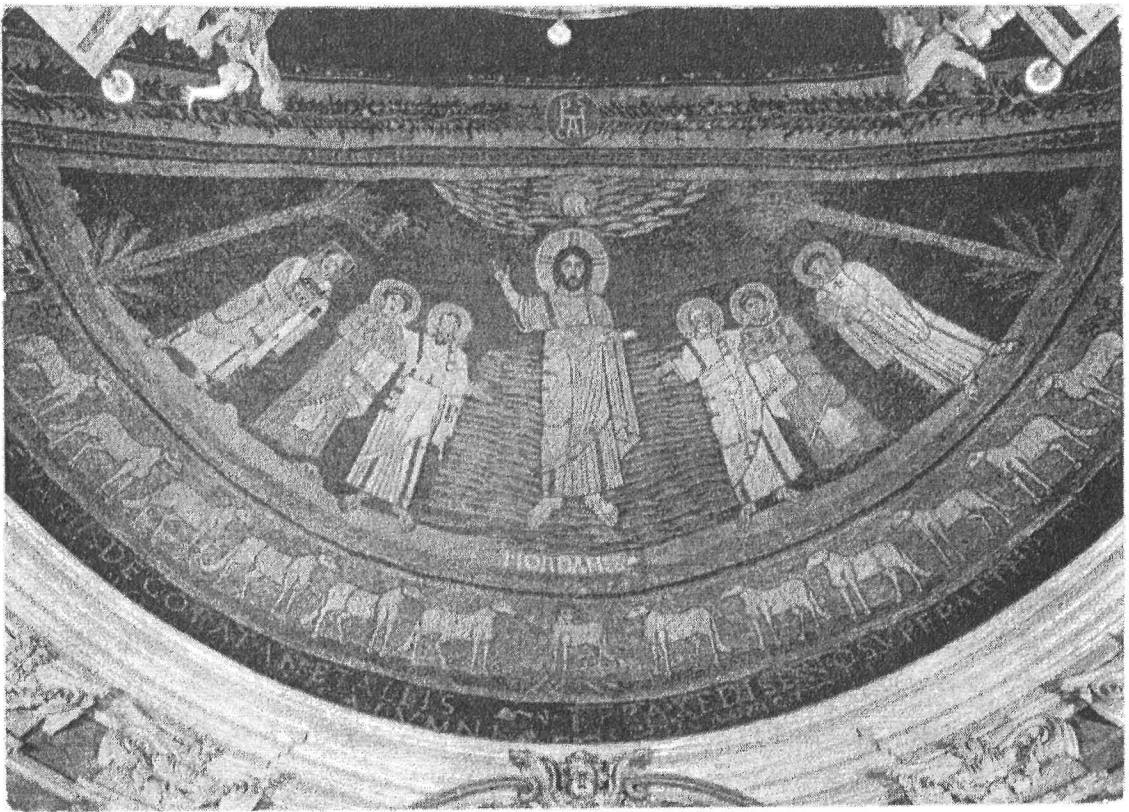
食べられる野草を探すために、二頭のロバという非常に近代的な道具が使われていました。「ロバが食べたならば、ロバが死なないものは人も死なないと言い、食用とみなしました」と、当時そこで生活した一人は証言し、こう付け加えています。「一ヶ月以上続けていつも草を食べていましたが、あまりにも苦いので、みんなで『苦味』（訳注：「不快なもの」という意味にもなる）と呼んでいました。この苦味を断つため、料理の途中でそれらをまな板の上に出し、汁をしぼり出し、その後ふたたび鍋にもどしました」。

さてここで、悪漢ドン・パブロスを描いたケベード*の文にも匹敵する箇所が登場します。プロカルド修道士はその報告書の中でこう述べています。

「野草の鍋には、おまけとして二匙のヒヨコマメと二匙のオリーブ油が入れられました。こうして三ますのヒヨコマメが、当時25人から30人の修道士がいたその共同体の一年間分のものでされたのです。ヒヨコマメが鍋に入れられても、各人の口に入るにはあまりにも少なかったため、自分のお椀のなかに二粒のヒヨコマメを見つけた者は、たくさんだと思っただけでした」。

この箇所は、ドン・パブロスが知ったかぶりのカブラの下宿に行った時、「お腹をぺこぺこにして」どのように入って行ったかをケベードが描写している箇所と比較すると、なかなか面白いものです。「カブラ修士様は座り、祝福した。人々は、始めも終わりもない永遠の食事をしていた。木の椀にスープが出てきたが、あまりにも透明で、それを飲もうとすると、泉のほとりのナルシス以上の危険があった。やつれた指は泳いで、椀の底にぽつんと一粒、孤児となったヒヨコマメの後を追った」。(続)

*フランシスコ・デ・ケベード (1580~1645)。スペインの詩人、小説家。



421 - ROMA

Chiesa di S. Prassede - Mosaico dell'Abside
Eglise de S. Prassede - Mosaïque de l'Abside
S. Prassede church - Mosaic of the Apse
S. Prassede Kirche - Apsismosaik

カルメル会の企画案内



カヌーの会金の案内



カルメル霊性センター主催

2007年度

カルメル会四旬節講話シリーズ

テーマ：今こそ信徒を切実に招かれるキリストのみ声
—現代における信徒の霊性—

場所：カトリック上野毛教会聖堂（東急大井町線上野毛駅下車徒歩7分）
世田谷区上野毛2-14-25 カルメル修道会（TEL 03-3704-2171）
日時：下記の各土曜日 午後2時半開始 入場無料（講話の後、主日のミサ）

- 2月24日（土） 雨宮 慧（東京教区司祭）
「聖書が語る聖霊」
- 3月 3日（土） 田畑邦治（白百合女子大学教授）
「世に生きる希望の証し」
- 3月10日（土） 大瀬高司（カルメル修道会司祭）
「旅する教会の途上にて 呼びかけられた覚醒、期される覚生」
- 3月17日（土） 九里 彰（カルメル修道会司祭）
「世に遣わされたキリストの姿」
- 3月31日（土） 中川博道（カルメル修道会司祭）
「世を愛された神と共に世に生きる霊性」

なおカルメル会の司祭による講話は、以下の場所、日時においても行なわれます。

場所：カトリック三馬教会聖堂
石川県金沢市三馬3-324 カルメル修道会（TEL 076-244-7788）
日時：下記の各日曜日 午後1時30分開始* 入場無料（*午後2時から変更）

- 2月25日（日） 中川博道（カルメル修道会司祭）
「世を愛された神と共に世に生きる霊性」
- 3月18日（日） 九里 彰（カルメル修道会司祭）
「世に遣わされたキリストの姿」

霊性センター事務局 Tel(03)3704-2171 Fax(03)3704-1764

上野毛霊性センター '07年3月~'08年3月

A 黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 聖書深読 (毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

4月14日~15日 九里彰師

7月7日~8日 九里彰師

12月15日~16日 九里彰師

08/ 2月23日~24日 九里彰師

一日聖書深読 (毎回土曜日午前10時~午後4時)

10月13日 九里彰師

11月17日 九里彰師

08/ 1月12日 九里彰師

3月15日 九里彰師

2. 奉獻生活者のための黙想会

7月26日(木) 夕食~ 8月4日(土) 朝 九里彰師

8月21日(火) 夕食~ 30日(木) 朝 福田正範師

12月26日(水) 夕食~08/1月4日(金) 朝 福田正範師

3. 木曜黙想会 一般黙想 (毎回木曜日10時~16時)

4月12日 私の心は燃えていたではないか 福田正範師

5月3日 私はぶどうの木、あなた方はその枝である 九里彰師

6月28日 思い悩んではならない 福田正範師

7月5日 子よ、元気を出しなさい 九里彰師

10月25日 あなたの信仰が、あなたを救った 福田正範師

12月20日 お言葉どおり、この身に成りますように 九里彰師

08/ 1月31日 主よ、助けてください 福田正範師

2月28日 見えない者は、見えるようになる 九里彰師

3月27日 あなた方に平和があるように 福田正範師

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人 (毎週金曜日10時~16時)

3月16日 アヴィラの聖テレジアによる「主の証し人」 松田浩一師

4月27日 十字架の聖ヨハネの「無の道」 九里彰師

5月25日 カルメルの父 聖ヨゼフ 福田正範師

7月20日 カルメルの元后 聖マリア 福田正範師

9月21日 アヴィラの聖テレジアの説く「従順」 九里彰師

10月5日 リジューの聖テレジアが生きた「祈り」 九里彰師

- 11月 2日 自分に死に、あなたに生きんことを 福田正範師
 12月 7日 三位一体のエリザベットの示す「天国」 九里彰師
 08/ 2月 8日 御復活のラウレンシオ 福田正範師
5. 青年黙想会 九里彰師 神学生
 5月 4日(金) 17時受付～ 6日(日) 16時
 11月23日(金) 15時受付～24日(土) 16時
6. 召命黙想会(男女) 九里彰師、
 4月21日(土)～22日(日)・・受付16時から
 11月 9日(金) 20時～11日(日)・・(9日は夕食を済ませてご参加ください)
7. 大祭日のミサに与かるために
 【クリスマス】・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
 12月24日(月)～25日(火)《講話なし、夕食なし》
 【聖週間を祈る】チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
 聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能。
 4月 5日(木)～ 8日(日)《講話なし、各食事つき》
 08/ 3月20日(木)～23日(日)《講話なし、各食事つき》
8. 特別黙想会 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ) 夕食を済ませてご参加ください。
 A【私は神を見たい】・・・聖霊に導かれて
 6月29日(金) 20時 ～ 7月1日(日)
 B【私は神を見たい】・・・祈り
 10月26日(金) 20時 ～ 28日(日)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
 またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので
 なるべくFAX・はがき・Eメールをお願いします。(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp

B カルメル靈性研究クラス（九里 彰神父）

- * 十字架の聖ヨハネ『靈の賛歌』⇒『愛の生ける炎』
 - 3月14日 「第35の歌と第36の歌」
 - 3月28日 「第37の歌と第38の歌」
 - 4月11日 「第39の歌と第40の歌」
 - 4月25日 『愛の生ける炎』緒言と第一の歌の16まで
- * アヴィラの聖テレジア『創立史』
 - 3月21日 「はしがきと第1章」
 - 4月4日 「第2章と第3章」
 - 4月18日 「第4章と第5章」

どちらも水曜日夜7：15～8：45まで。テキストを少しずつ読み、解説と分かち合いがあります。随時参加もOKです。上野毛教会信徒会館2階26号室。無料。

C 祈りの集い（九里 彰神父）

- 3月30日 「あなたたちの中で罪のない人が、まずこの女に石を投げよ。」
- 4月20日 「見ないのに信じる人は幸いである。」

毎月一回金曜夜7：15分より。上野毛聖テレジア修道院（黙想）小聖堂。都合の悪い場合は、上野毛教会信徒会館ホールで。無料。

- 7：15～8：15 み言葉と念祷
- 8：15～8：45 分かち合い（参加自由）

D キリスト者の信仰の歩み ～キリスト教靈性の初歩～

（松田 浩一神父）

第十回 3月2日（金）

- 19：00～19：30 初金ミサ（上野毛教会聖堂）
- 19：40～20：40 勉強会（上野毛教会信徒会館2階26号室）

- * 参加費は無料。対象はキリスト者としての信仰を深めたい人とキリスト教に関心のある人。持ってくる物は、聖書、筆記用具、ノート。

E 東西靈性研究クラス（九里 彰神父）予告

カルメルの靈性を通して、広く諸宗教の靈性を学ぶため、4月から開講します。

- * 原則として毎月第二金曜日（午後7：15～8：45）信徒会館26号室
- * 各回とも、参加者に順番でリポーターを勤めて頂きます。その後、分かち合い。
- * 第一回 4月13日『行持上』（道元著『正法眼藏』岩波文庫第一巻、第十六
- * 発表者：梶川英夫
- * 問い合わせ：加藤和彦 TEL（03）3418-6816

神の慈しみの体験 ゆるしの秘蹟(告解)の實踐

慈しみ深い神を探す若者たちの集い (C.Y.C.)

今年の四旬節が2月21日の灰の水曜日から始まり、4月8日(日)の復活祭を迎える準備の季節に入ります。キリスト信者であるわたしたちは、この期間、「回心して、福音を信じなさい」という聖書の呼びかけに答えて過ごします。そしてこの時期、教会は『ゆるしの秘蹟(告解)』に近づくように勧めます。それは神との和解と教会との和解、そしてすべての人との和解を、主キリスト御自身の仲介によって行われる、神の慈しみの業が、この秘蹟によって行われるからです。復活祭の準備として、参加してください。

日時: 3月21日(水)13:30から16:30まで。

対象: 18歳以上30歳までの青年男女。

スタッフ: 上野毛修道院のカルメル会士たち

場所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩5分

プログラム:

13:30~	受付開始(13:45~:はじめの祈り)
14:00~14:40	ゆるしの秘蹟にみられる神の慈しみ深い愛
14:40~14:50	休憩
14:50~16:00	聖体礼拝とゆるしの秘蹟
16:00~16:30	茶話会
16:30	解散



参加ご希望の方は、お手数でもFAXまたはE-mailに住所・氏名・年齢をお書きの上、下記宛に送ってください。当日の飛び入り参加もOKです。直接会場にお越しください。

カルメル会では若者の集い『カルメル・ユース・クラブ』を行っています。カルメル家族に支えられて、イエス・キリストが示してくださった「いつくしみ深い神の姿」を追いか求め、その神様に出会おうとする集まりです。この集まりは、家庭的な雰囲気の中で、「隠れている宝」に対する信仰を養っていきます。

(連絡先・問い合わせ)

カルメル修道会カルメル・ユース・クラブ(C.Y.C.)係 Fr. 松田
〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

TEL 03-3704-2171 FAX 03-3704-1764

E-mail tokyo@carmel-monastery.jp



2007年 聖週間 ご案内

4月1日(日) 受難の主日(枝の主日)

4月5日(木) 聖木曜日(主の晩餐)

典礼 19:00～

4月6日(金) 聖金曜日(主の受難) 大斎、小斎

十字架の道行き15:00～

典礼 19:00～(十字架の崇敬と称賛)

4月7日(土) 聖土曜日

典礼 19:00～ 洗礼式

4月8日(日) 復活の主日

荘厳ミサ 10:30～ ミサ後祝会 ・ たまごの祝別(各ミサ後)

「聖週間、祭日のミサにあずかるために」

個人黙想ご案内

聖週間の典礼、復活の主日のミサにあずかるため、黙想の家で静修の一時をお過ごしになりませんか。

2007年4月5日(木) 夕食～8日(日)朝食

- * 講話は、ありません。各人のテーマによる黙想
チェック イン：午後3時から入室可。
チェックアウト：午前10時(復活の主日)
- * 費用： 1泊 ￥5000 (3食付・1泊から参加可)
- * お問い合わせ、お申込み： Tel.03-5706-7355・Fax.03-3704-1764

上野毛・聖テレジア修道院(黙想)

‘07年3月～’08年3月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院 (黙想)

1. 聖書深読

① 一泊二日 (午後5時～午後4時)

3月10日 (土) ~ 11日 (日)	渡辺幹夫神父
5月19日 (土) ~ 20日 (日)	中川博道神父
7月21日 (土) ~ 22日 (日)	新井延和神父
9月15日 (土) ~ 16日 (日)	中川博道神父
11月17日 (土) ~ 18日 (日)	渡辺幹夫神父
08/ 3月 8日 (土) ~ 9日 (日)	新井延和神父

② ミニ深読 (午後14時～午後16時)

2月13日 (火) 深読スタッフ

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

3月14日 主の十字架	渡辺幹夫神父
4月11日 復活	新井延和神父
5月23日 聖霊	長岡幸一神父
6月20日 み心	ベルナルド神父
7月18日 カルメルの聖母	カルメロ神父
9月19日 エディットシュタイン	渡辺幹夫神父
10月17日 アピラの聖テレジア	アロイジオ神父
11月14日 日常の聖性	中川博道神父
12月12日 十字架の聖ヨハネ	新井延和神父
08/ 1月16日 新しくなる	渡辺幹夫神父
2月20日 聖書の祈り	新井延和神父
3月12日 主の受難	カルメロ神父

3. 四旬節黙想 (午後5時～午後4時)

3月3日 (土) ~ 3月 4日 (日)	新井延和神父
08/ 2月9日 (土) ~ 2月10日 (日)	カルメロ神父

4. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月1日 (土) ~ 12月2日 (日)	渡辺幹夫神父
-----------------------	--------

5. 聖テレズの黙想 (午後5時から午後4時まで)

9月30日 (日) ~ 10月1日 (月)	伊従信子
-----------------------	------

6.一般のための黙想会（修道者も可能）

4月28日（土）～5月5日（土）

中川博道神父

7.日曜黙想会（午前10時～午後4時）

6月10日

渡辺幹夫神父

10月 7日

渡辺幹夫神父

8.奉獻生活者の黙想（午後5時～午前9時）

8月 2日（木）～ 8月11日（土）

中川博道神父

8月18日（土）～ 8月27日（月）

渡辺幹夫神父

10月20日（土）～10月29日（月）

渡辺幹夫神父

12月27日（木）～ 1月 5日（土）

カルメル神父

9.青年黙想会（午前10時～午後4時）

11月4日（日）

カルメル宣教修道女会 中川博道神父

.....

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

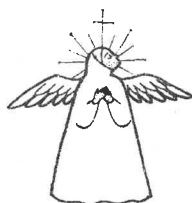
*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、受付が休みになっている時はすぐに返事できないこともあります。その際は、おそれいりますが後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-32-7457



「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」

～都会の中の一泊静修～（2007）

この会は、現代の忙しい社会の中であって、また都会の中であって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「秘跡を生きる」としました。このテーマの中で、秘跡の教義的な側面をベースにし、神との出会いの中で七つの秘跡をどのように受止め、生きることが出来るかを黙想の中で深めていく事ができるようにと願っています。

了	第1回	1月16日(火)	神の現存の体験	松田浩一神父	(上野毛修道院)
了	第2回	2月12日(月)*祝	洗礼・堅信の秘跡	中川博道神父	(宇治修道院)
	第3回	3月21日(水)*祝	赦しの秘跡	新井延和神父	(宇治修道院)
	第4回	4月17日(火)	聖体の秘跡	カルメロ神父	(宇治修道院)
	第5回	5月15日(火)	結婚の秘跡	九里彰神父	(上野毛修道院)
	第6回	6月19日(火)	叙階の秘跡	渡辺幹夫神父	(宇治修道院)
	第7回	7月16日(月)*祝	カルメル山の聖母	新井延和神父	(宇治修道院)
	第8回	9月11日(火)	幼いイエスの聖テレジアと秘跡	アダミニ神父	(日比野修道院)
	第9回	10月16日(火)	アヴィラの聖テレジアと秘跡	Sr.ベアトリス	(宇治修道院)
	第10回	11月23日(金)*祝	病者の塗油	ベルナルド神父	(宇治修道院)

* 時間 AM10:00～PM4:00

* 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) *聖テレジア幼稚園隣接
(駐車場は利用できません。)

* 費用 1,000円

* 持ってくるもの 聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当

* 定員 約20名

* プログラム

10:00～	祈り
10:40～	講話【1】
12:00～12:45	昼食
12:50～	赦しの秘跡または短い面接
13:30～	講話【2】
14:45～	ミサ
15:30～	茶話会
16:00～	終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名・住所・TELを記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 3 京 都（毎回土曜日）

3月 3日	一場修神父	7月 14日	P. オハール神父
4月 21日	奥村豊神父	9月 8日	新井延和神父
5月 12日	新井延和神父	10月 6日	P.オハール神父
6月 9日	渡辺幹夫神父	11月 17日	奥村豊神父
		12月 8日	新井延和神父

*日曜日の福音を深く味わい、分かち合い、解読で学びながら福音を深く心に刻む
聖書深読黙想会に、どなたでもご参加ください。

場 所：河原町カトリック会館6階又は7階

費 用：各回 2,500 円（昼食代を含む）

時 間：午前10時～午後4時 持参品：聖書・筆記用具・ノート

申し込み・問い合わせ（お申し込みは、各回3日前までに）

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル

河原町カトリック会館内 聖書委員会

TEL：075-211-3484 FAX：075-211-3910

4 名古屋聖書深読会

4月 14日（土） 日比野カトリック教会 新井延和神父

5月 19日（土）～20日（日） 宇治カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

中川博道神父・奥村一郎神父

10月 6日（土） 日比野カトリック教会 中川博道神父

* 毎回事前に名古屋教区ニュースでお知らせします。

* 定員 21 名 申し込みは FAX かハガキでお願いします。

* コースは深読法を集中的に行う一日コースと全行程を沈黙のうちに黙想しながら 1泊2日のコースがあります。

* 対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方ならどなたでもご参加ください。

申し込みは、下記の住所へ、ハガキか FAX で、氏名、住所、TEL を記入の上開催の3日前までに必着のこと。キリスト者は所属教会名もご記入ください。

〒465-0058 名古屋市名東区貴船 3-2115 小林 厚・晃子

TEL/FAX052-701-3685

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 有光信子さんのグループ

① 通信・・・参加者は「素読表」（B5 あるいはその半分に、記号、全、及び思いを書く。書式は自由）を送る。全員の素読表がコピーされて参加者の手元に戻る。特に指導者のようなものはないので、コメントや解説はない。

費用：1回 300円 年 10回 3,000円

② ミニ深読（午後2時～4時）毎月第4木曜日（8月はお休み）宇治カルメル会教会

①②とも：〒663-8033 西宮市高木東町 31-20-504 有光信子

TEL/FAX 0798-67-8132

3 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」No. 323 (2006年冬号) 「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに — 聖書と教父(4) …高橋正行
- * 祈り(13) …チプリアノ・ボンタッキョ
- 信仰による照らし — 第四講話(第一部) …フェデリコ・ルイス
- アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(4)
— 『靈魂の城』を中心にして …九里 彰
- 三位一体のエリザベット帰天百周年にあたって(4) 光、愛、いのちへ …伊従信子
- エディット・シュタインの神への道行き(2)
— アピラのテレサとの邂逅とその影響 …須沢かおり
- 愛で生きる(3) …ペトロ・アロイジオ
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(15) — 全存在をかけて祈る …伊従信子
- * 石牟礼道子の作品に見られるキリスト教(3)
…『十六夜橋』のコスモロジーと「原罪」 …谷口正子
- 愛の断章(2) …奥村一郎

雑誌「カルメル」No. 324 (2007年春号) 「今日の靈性」

- * 聖霊の光のもとに — 教父たちの教えと生き方(5) …高橋正行
- 「向こう岸に渡ろう」 — マルコ福音書4章35～41節 …九里 彰
- ハンナの祈る心 — サムエル記一章より …中川博道
- * アヴィラの聖テレジアのとらえた「謙遜」の意味(5)
— 『靈魂の城』を中心にして …九里 彰
- 愛で生きる(4) …ペトロ・アロイジオ
- 幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師(16) — あなたの信仰を信じなさい…伊従信子
- カルメルの馨り(8) ～結実へ～OCD日本創立に向けた具体的な動き I…大瀬高司
- エリザベットの「魂のこだま」、ギット — 信徒の生き方を探る …伊従信子
- * 言わなかった”思い”たち …森 みさ
- 愛の断章(3) …奥村一郎

※ 雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬号+特集号、送料込み)として、3000円を下記へお振込みください。

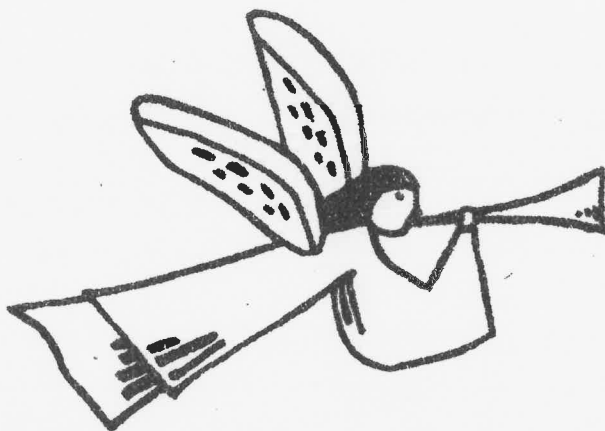
郵便振替: 00190-4-195457 跣足カルメル修道会

(お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL(03)5706-8356)

待望の再販

『自叙伝』(サンパウロ社)、『創立史』『完徳の道』『靈魂の城』(ドン・ボスコ社)

諸所の企画案内



CWC (キリスト者婦人の集い)

心のいほり

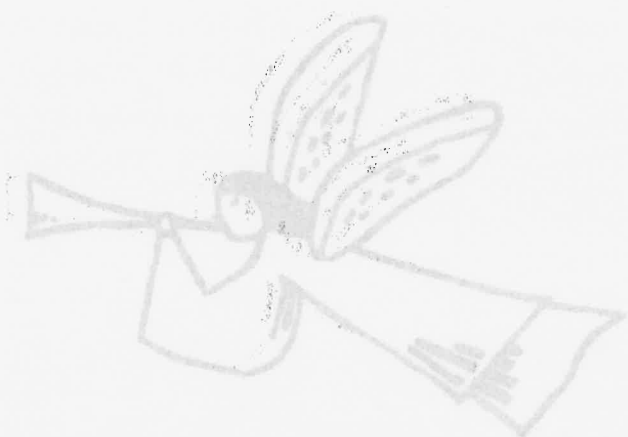
リーゼンフーバー神父キリスト教講座

真命山靈性交流センター

ノートルダム教育修道女会

ノートルダム・ド・ヴィ

内家画金の祝詞



(イ集の人最音イスリキ) OWO

(イ集の心)

連集輝イスリキ父軒一ハーマンサーリ

一タノチ流交封露山命真

金女直謝音輝ムズハイ一

トダ・イ・ムズハイ一

諸所の企画案内

【CWC（キリスト者婦人の集い）講話会】

今年は、「聖書深読入門」を行ないます。

講師：九里 彰神父（カルメル会）

日時：原則として第二火曜日（以下のとおりです）

場所：真生会館4階第8会議室 時間：午前10時30分～12時

対象：キリスト教に関心のある方はどなたでも。

2007年

3月13日（火）

4月10日（火）

5月 8日（火）

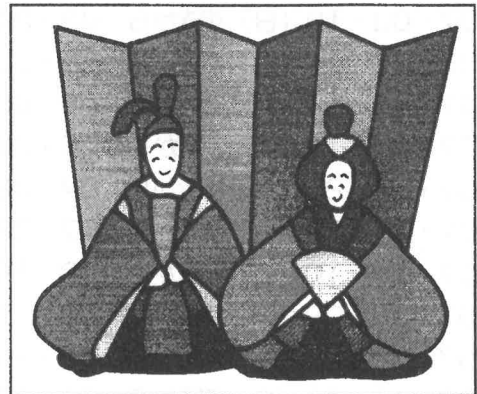
6月12日（火）

7月10日（火）

10月9日（火）

11月13日（火）

12月11日（火）



8月9日はお休みいたします。

方法

1. まず講師の選んだ聖書箇所を皆で一節ごとに「輪読」。
2. その後、沈黙の内に何度も読み、み言葉を味わう「素読」。
3. 「素読」で受け取ったものを、一節ごと皆で分かち合う「合読」。
(無理に発言する必要なし。何も発言しなくてもOK。)
4. 「合読」を受けて、講師がその日の箇所について解説する「解説」。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせして下さい。電話では取次いでおりません。

申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」

藤原神父 FAX 072-802-5026

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★ 2007年度(予定) ★

K1	07・01・21 (日)	4時から	01・27 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	了
B1	07・01・29 (月)	2時から	02・04 (日)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	了
Y1	07・02・10 (土)	2時から	02・16 (金)	2時まで	神戸・須磨ヨハネ	了
P1	07・02・22 (木)	2時から	02・28 (水)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	了
K2	07・03・18 (日)	4時から	03・24 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
M1	07・05・17 (木)	2時から	05・23 (水)	2時まで	盛岡・白百合・シャルトル	
K3	07・06・03 (日)	4時から	06・09 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P2	07・06・17 (日)	2時から	06・23 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
N2	07・06・26 (火)	2時から	07・02 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
Y2	07・07・22 (日)	2時から	07・28 (土)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ	
P2	07・08・10 (金)	2時から	08・16 (木)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	
K4	07・09・09 (日)	4時から	09・15 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
B2	07・10・17 (水)	2時から	10・23 (火)	2時まで	札幌・厚別・ベネディクト	
N3	07・11・02 (金)	2時から	11・08 (木)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム	
K5	07・11・11 (日)	4時から	11・17 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会	
P3	07・12・03 (月)	2時から	12・09 (日)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会	



***** 一日内観・ミニ内観のご案内 *****

一日内観

★宝塚売布女子ご受難会修道院にて 参加費は1万円

2007年 1月 7日(日)午後2時から 8日(月)午後4時まで
2007年10月27日(土)午後2時から28日(日)午後4時まで

ミニ内観

★沖縄・安里修道院・毎月第一水曜日・10時から3時まで
シスターかな・電話098・866・8293

リーゼンフーバー講座・集い案内

2007～2008年

- キリスト教入門講座 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的としキリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会 ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心 ● 4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時
6月22日(金)20時30分～24日(日)13時 } 秋川神真窟。1泊2400円程度。
8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分
10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時
2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分 上石神井。5600円程度。
● 5月12日(土)13時～13日(日)16時 } 宝塚市
8月1日(水)17時30分～7日(火)13時
- ミサ 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
- 黙想 ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し8月14日は休み。8月28日は上智大学内 Kultourハイム聖堂。
12月25日(火)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(5月2日、8月全休、10月31日、祝日は休み)
●通う霊操 8月18日(土)～8月26日(日) 18時～21時 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 祈りの集い ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月14日、5月26日、6月30日、7月14日、8月18日、9月8日、10月13日、11月17日、12月8日、
2008年1月12日、2月2日、3月15日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
- 黙想会 5月19日(土)10時～20日(日)15時、9月22日(土)10時～24日(月)14時、12月1日(土)10時～2日(日)15時、
2008年3月8日(土)10時～9日(日)15時、上石神井。1泊5600円程度。
- アガベ会 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
4月21日(土)、6月16日(土)、10月21日(日)、2008年1月20日(日)
- クリスマス会 12月15日(土) 17時～ 聖イグナチオ教会信徒会館ヨセフホール(予定)。要申し込み。
クリスマスのみサ 12月23日(日) 14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座

2007～2008年

このクラスでは、開かれた雰囲気の中で人生の問題に対する聖書の答えを聞くことを通して、キリスト教の教えを包括的に学び、信仰に基づいた生活態度の形成を旨とします。(受講は無料です)

日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 カトリック麹町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール 電話 03-3263-4584
JR中央線・総武線・地下鉄丸の内線・南北線 四ツ谷駅徒歩1分

対象 キリストの教えを学び、信仰を自分自身の問題として考えたい方。
どなたでも歓迎です。キリスト教の予備知識は必要ありません。

内容 1時間半の講話では、人間のあり方と現代的な問題意識から出発して、聖書のメッセージを徹底的に取り上げ、キリスト教を理論的にも実践的な意味からも説明します。また、黙想会などを通して祈りや信仰体験を深める機会もあります。1年間の講座を通してキリスト教の基本的な教えの全体をテーマ別に取り扱います。裏面のように1年間のプログラムになっていますが、中途参加をされても結構です。また、その日のテーマに興味を持たれた場合は、どうぞお出かけください。なお、このクラスは受洗を希望する方にとって、十分な準備となります。

講師のプロフィール

1938年	ドイツに生まれる
1958年	イエズス会入会 哲学・神学を学ぶ
1967年	ミュンヘン大学卒業 哲学博士、同年来日
1971年	司祭叙階
1989年	神学博士
現在	上智大学文学部哲学科教授 元放送大学客員教授



連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124 (直通)、5111 (伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html
<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

リーゼンフーバー神父 キリスト教入門講座 2007～2008年

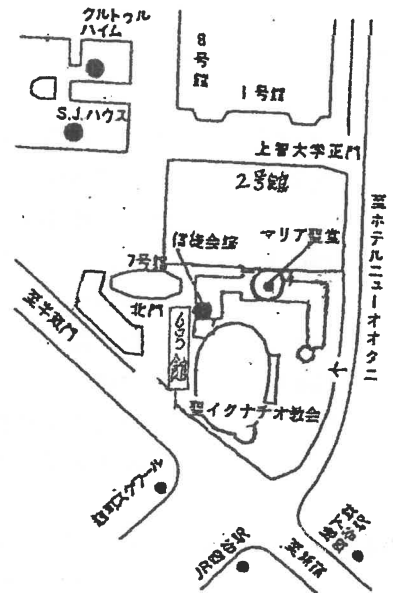
日時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）信徒会館3階アルペホール 電話03-3263-4584

各 回 の テ ー マ

- 4/13 信仰の道—人生の意味を問う
- 4/20 聖書の人間像—人間の現状と使命
- 4/27 旧約聖書の神体験—聞くことと見ること
- 5/11 神認識の道—理性と経験を通して
- 5/18 創造された世界—人間存在の根拠と自然の意味
- 5/19-20 ●黙想会
- 5/25 歴史と信仰—神と人間との出会い
- 6/1 新約聖書の神理解—主なる父
- 6/8 祈りによる神理解—神の偉大さと近さ
- 6/15 救い主の役割—人類の希望
- 6/22 神の国—イエスの告げるメッセージ
- 6/29 イエスの生き方—神に遣わされて人に仕える
- 7/6 イエスの人間関係—罪人と弟子と共に
- 7/13 イエスは誰か—イエスの自己理解
- 7/20 最後の晩餐—自分を与えるイエス
- 7/27 イエスの受難—その史実と意図
- 7/28 感謝のミサ（14時、上智大学内 Kulturlハイム2階）
- 8/3, 10 ○休み
- 8/17 イエスの死—その救済的意味
- 8/18-26 ●通う霊操（18-21時）
- 8/24 聖書のイエス像—ヨハネの見たイエス
- 8/31 イエスの復活—今に生きるイエス
- 9/7 聖霊—神の愛に導かれる
- 9/14 祈りの本質とさまざまな祈り方—神と関わる
- 9/21 洗礼と堅信—イエスに結ばれて生きる
- 9/22-24 ●黙想会
- 9/28 教会の成立と意味—イエスを中心に集う
- 10/5 人間としてのイエス—新しい人間像の基礎付け
- 10/12 御子としてのイエス—イエスの神との関係
- 10/19 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 10/26 信仰の決断—支えられて生きる
- 11/2 ○休み
- 11/9 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/16 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 11/30 人間の弱さ—罪とは何か
- 12/1-2 ●黙想会
- 12/7 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12/14 愛の心—キリスト教の本質
- 12/15 クリスマスのミサとパーティ（教会信徒会館ヨセフホール）（予定）
- 12/21 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う
- 12/23 ミサ（14時、上智大学内 Kulturlハイム2階）
- 1/11 希望を持つ勇氣—未来に向かって歩む
- 1/18 霊の動き—福音による生き方
- 1/25 聖書と教会—信仰の基盤になる言葉
- 2/1 秘跡と教会生活—毎日を養う信仰
- 2/8 神の言葉—神との日常的な対話と黙想の仕方
- 2/15 結婚と独身—愛の道
- 2/22 仕事という召し出し—教会と社会に寄与して働く
- 2/29 人間の苦悩—悪とは何のためか
- 3/7 死—その実現と克服
- 3/8-9 ●黙想会
- 3/14 人生の完成—神の内に生きる
- 3/21 ○休み
- 3/23 復活祭。感謝のミサ（14時、上智大学内 Kulturlハイム2階）
- 3/28 聖母マリア—信じる者の原型

（上智大学内 Kulturlハイム2階）



リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座

2007～2008年

日時 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分

場所 カトリック麹町聖イグナチオ教会 信徒会館3階アルペホール 電話 03-3263-4584
JR中央線・総武線、地下鉄丸の内線・南北線 四ッ谷駅徒歩1分

対象 キリスト教についての基礎知識をもち、信仰をより深く考えたい・理解したい・
生きたい方はどなたでも歓迎です。

内容 人生を支える信仰の力と豊かさを発見するために、キリスト教の内容を包括的かつ
徹底的に知るよりも、優れた道はないでしょう。本講座では信仰の中心的な諸テーマ
を解明することを通して、その基盤と意味を探求し、理論的理解を深めるとともに信
仰生活に指示を与え、充実した祈りへの道も開きます。現代の問題意識を常に背景に
しながら、聖書を元に、古代と中世の奥深いキリスト教思想を参考にして、信仰を人
間論的・神学的・哲学的な観点から展開します。専門的な知識は前提とされませんが、
入門講座程度の基礎知識は必要です。2年間の計画になっていますが、本年度は信仰
の実践に重点を置き（裏面を参照）、次年度は信仰の内容を取り扱う予定です。
途中参加・部分参加も可。講座は無料です。

講師のプロフィール

1938年	ドイツに生まれる
1958年	イエズス会入会 哲学・神学を学ぶ
1967年	ミュンヘン大学卒業 哲学博士、同年来日
1971年	司祭叙階
1989年	神学博士
現在	上智大学文学部哲学科教授 元放送大学客員教授



連絡先 クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス

電話 03-3238-5124 (直通)、5111 (伝言)、FAX 03-3238-5056

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>

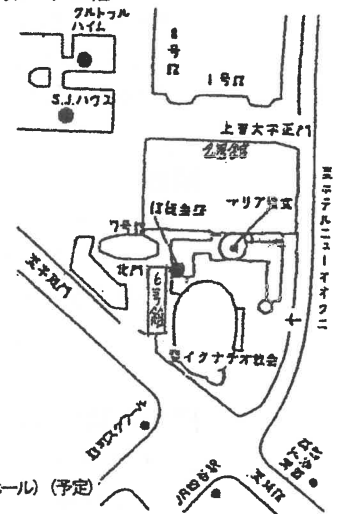
リーゼンフーバー神父 キリスト教理解講座 2007～2008年

日時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

場所 聖イグナチオ教会 (四ツ谷駅前) 信徒会館3階アルペホール 電話 03-3263-4584

毎回のテーマ

- | | | |
|---------|-----------|--|
| 4/3 | [倫理の基礎づけ] | 人間の尊厳——自立と自己実現 |
| 4/17 | | 神の似姿——自己超越と善なる神 |
| 5/1 | | 〇休み |
| 5/15 | | 人生の目標——神への愛による幸福 |
| 5/19-20 | | ●黙想会 |
| 5/29 | | 人間以外のものの意義——世界の使用と聖化 |
| 6/5 | | 創造と救い——イエスのまねび |
| 6/19 | [倫理的行為] | 善い行為の規範——人間の本性と神の意志 |
| 7/3 | | 人間的行為——自由と良心 |
| 7/17 | | 性格の形成——徳と感情 |
| 7/28 | | 感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturlieum 2階) |
| 7/31 | | 人間の弱さ——誘惑と罪 |
| 8/7 | | 魂の癒し——恩恵・回心・ゆるし |
| 8/18-26 | | ●通う霊操 (18-21時) 21日は振替 (上智大学内 Kulturlieum 2階) |
| 9/4 | [根本的態度] | 人生を生きる基盤——信頼・信仰・希望 |
| 9/18 | | 課題の中心——愛による完徳 |
| 9/22-24 | | ●黙想会 |
| 10/2 | | 真理と善の実現——判断・勇気・節制 |
| 10/16 | | 共同体と社会の建設——共通善・正義・愛 |
| 10/30 | | 個人の道——聖霊の導きとカリスマ |
| 11/6 | [日常生活] | 対人関係の意義——出会いと協力 |
| 11/20 | | 身体と生命——性と生命倫理 |
| 12/1-2 | | ●黙想会 |
| 12/4 | | 家庭と独身生活——与えられた道の発見と深化 |
| 12/15 | | クリスマスのミサとパーティ (17時、教会信徒会館ヨセフホール) (予定) |
| 12/18 | | 仕事と余暇——能力の活性化と人への奉仕 |
| 12/23 | | ミサ(14時、上智大学内 Kulturlieum 2階) |
| 1/15 | | 困難と苦しみ——その受け入れと克服 |
| 1/29 | [信仰生活] | 教会生活への参加——救いのしるしと典礼の意味 |
| 2/5 | | 秘跡の恵み——ミサと告解 |
| 2/19 | | 祈りの本質と諸形態——神との個人的な関わり |
| 3/4 | | 深遠な神秘への接近——黙想の意味と仕方 |
| 3/8-9 | | ●黙想会 |
| 3/18 | | 世界に開かれた霊性——活動における観想 |
| 3/23 | | 復活祭。感謝のミサ(14時、上智大学内 Kulturlieum 2階) |



坐禅会



月曜日 : 17時20分～20時10分

木曜日 : 18時～20時30分

(祝日を除く)

場所 : 上智大学内クルトゥルハイム1階正面左の部屋
3回坐り、間に講話があります。

初心者も歓迎です。遅刻も不定期の参加も可。

接心 2007年度

関東

4月27日(金)20時30分～5月4日(金)13時

6月22日(金)20時30分～24日(日)13時

8月9日(木)20時30分～16日(木)7時30分

10月30日(火)20時30分～11月4日(日)13時

2008年2月23日(土)8時30分～24日(日)15時30分上石神井、5600円

秋川神冥窟

1泊2400円程度

関西

5月12日(土)13時～13日(日)16時 宝塚市 ②

8月1日(水)17時30分～7日(火)13時 宝塚市 ①

連絡先 ① シスター田中 電話 0797-84-7863

② 岸本 正 電話 078-583-3067

指導と問い合わせ先:

クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S. J. ハウス

電話 03-3238-5124(直通)5111(伝言)、FAX 03-3238-5056



黙想へのお誘い

メディテーション

「会社帰りの黙想」

—あわただしい毎日に平安のオアシスを—

月2回、聖イグナチオ教会では黙想の場が開かれます。

リーゼンフーバー神父により、黙想のさまざまな仕方が紹介され、参加者一人ひとりが沈黙のうちに聖書のことばをもとにし、自己を探り静かに考え、祈ることができます。始めと終わりにオルガン演奏もあります。

信仰・宗派を問わず、毎日の忙しさから解放され、夕べのひとつきに心を深めたい方、どなたも歓迎です。随時参加、遅刻可、参加は無料です。初めて黙想なさる方も、お気軽にいらしてください。

日時：毎月第2・第4火曜日 18:45～20:00

但し8月14日休み、8月28日上智大学内クトゥルハイム聖堂
12月25日(火)クリスマス・メディテーション(予定)

場所：聖イグナチオ教会マリア聖堂(中聖堂)

東京都千代田区麴町6-5 TEL.03-3263-4584
(JR、地下鉄四ッ谷駅から徒歩)

指導司祭プロフィール
クラウス・リーゼンフーバー(Klaus Riesenhuber)

1938年生まれ、1967年来日

イエズス会司祭、哲学・神学博士

元放送大学客員教授

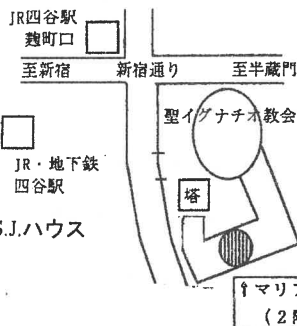
現在、上智大学文学部哲学科教授

連絡先：〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学S.J.ハウス

TEL.03(3238)5124(直通)/5111(伝言)

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

<http://www.anatomists.net/K-Riesenhuber/index.html>



真命山

2007 年度行事のご案内

祈りの集い (午前10時～午後3時)

年間テーマ「聖ダミアノの十字架のもとで祈る」

- 了 1月11日(木) 聖ダミアノの十字架のもとで祈った
聖フランチスコ
- 了 2月 8日(木) 十字架に釘づけられたキリストの体
3月 8日(木) キリストの受難と死
4月12日(木) 死に勝たれたキリストの姿
5月10日(木) イエス様の十字架のもとに
立っておられるマリア様
6月14日(木) 十字架につけられたキリストの御顔
7月12日(木) // (続き)
9月13日(木) 三位一体の栄光を表す十字架
10月11日(木) 十字架につけられたキリストを
囲んでいる人々
11月 8日(木) 十字架を担ってキリストに従う
12月13日(木) 十字架と馬小屋

指導者：真命山スタッフ

フランコ・ソットコルノラ神父 (院長)

シスター マリア・デ・ジョルジ

※個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒 865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・靈性交流センター

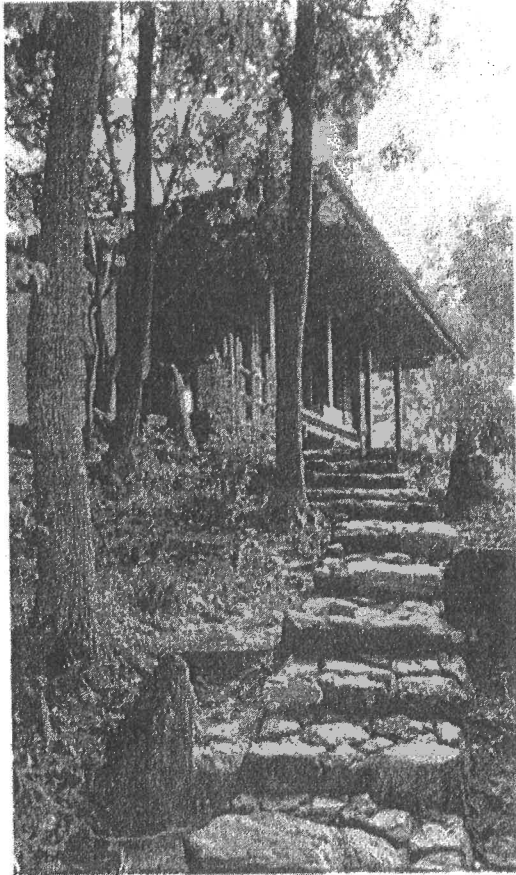
☎ 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

真命山

真命山の靈性

諸宗教対話・靈性交流センター



自然

神はすべてを作り
人の手に委ねられた

陽の昇るところから
陽の沈むところまで

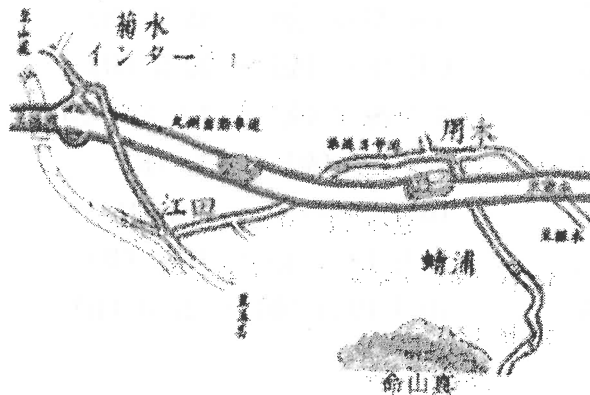
祈り

静けさ

沈黙の中に神の
言葉を聞こう

信仰体験を
分かち

交わり



ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel: 077-579-7580

Fax: 077-579-3804

Eメール: nd-inori@mbr.nifty.com

◎ 交通: JR 京都駅から湖西線で「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程:

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2006年12月27日(水)～2007年1月4日(木)了
- ② 2007年2月20日(火)～2月28日(水)了
- ③ 7月23日(月)～7月31日(火)
- ④ 8月18日(土)～8月26日(日)
- ⑤ 9月1日(土)～9月9日(日)

B. 週末3日間の個人指導による祈りの体験(神との親しさの中で日常を生きるために)

初日は、17時のミサで始まり、最終日は13時30分のミサで終わります。

- ⑥ 2007年1月19日(金)～21日(日)了
- ⑦ 2月2日(金)～4日(日)了
- ⑧ 4月13日(金)～15日(日)
- ⑨ 5月11日(金)～13日(日)

C. 3日間の週末個人黙想(週末に個人黙想をなさりたい方のため)

他の黙想会が行われている場合があります。

- ⑩ 2007年2月23日(金)～25日(日)了
- ⑪ 3月2日(金)～4日(日)
- ⑫ 3月23日(金)～25日(日)
- ⑬ 5月18日(金)～20日(日)
- ⑭ 6月29日(金)～7月1日(日)
- ⑮ 9月7日(金)～9日(日)
- ⑯ 10月5日(金)～7日(日)
- ⑰ 10月12日(金)～14日(日)
- ⑱ 10月19日(金)～21日(日)

⑱ 11月 2日(金)～ 4日(日)

D. 霊性プログラム：ワークショップ (自己発見から神へ)

⑳ 2007年3月22日(木)～ 29日(木)

E. 上記の日程以外でも、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせてください。

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 担当者： トニー・ブロードニャック師 (メノール宣教会) と シスター が
霊的同伴者としてお手伝いいたします。

◎ 受付： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の午後3時からです。

◎ 申込先： 郵送、または、Fax でお願ひします。

郵送： 〒520-0106 大津市唐崎 1丁目3-1 ノートルダム修道院

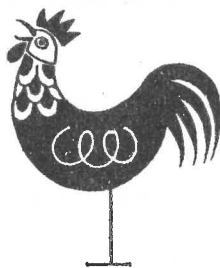
Fax： 077-579-3804

1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて下さい。

唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。但し、それ以前に満室に
なった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ 問い合わせ： 電話： 077-579-7580 または、

Eメール： nd-inori@mbr.nifty.com 「件名は黙想」でお願ひします。



いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2007年 3月17日(土)

— 祈りと謙遜 —

(幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師帰天40周年にあたって)

* 次回の予定 4月21日(土) *

講話 伊従信子 ・ 片山はるひ

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 ミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail jndv-jp@r2.dion.ne.jp

カルメル会の靈性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

新刊紹介

◆ 「神はわたしのうちに、わたしは神のうちに」

(三位一体のエリザベット帰天百周年記念出版)

伊従信子著・聖母文庫・¥525

総頁196



◆ 「祈りの道」・「いのちの道」

写真と文 伊従信子・サンパウロ・¥840・総頁各48

日々の生活に潤いをもたらす、

珠玉の言葉と写真を集めた2冊

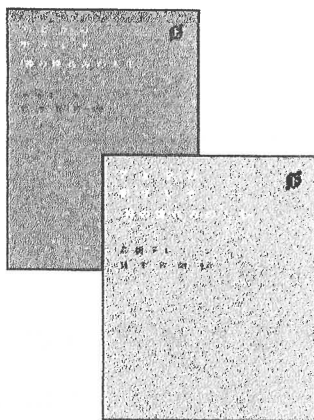


● 「三位一体のエリザベット」

— 神は私のうちに 私は神のうちに —

菊地多嘉子著・ドンボスコ・¥525

Sr.菊地多嘉子が、沈黙の生活の中からわきあがるエリザベットの霊性の美しさを記す。



● 「神の憐れみの人生」(上・下)

監修 鈴木宣明

訳 高橋テレサ

聖母の騎士社・上下各巻 ¥840

カルメル会・アピラの聖テレサに関する新刊本。

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどを B5 で 2 枚前後に簡単にまとめて送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われま

- * 寄稿連絡は、九里^{くのり} 彰神父宛にお願いいたします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル会修道院

Tel (03) 3704-2171 Fax (03) 3704-1764

投稿規程

- * 締め切り：原則的に毎月1 0 日まで
- * 原稿サイズ：**B5** 左右の余白：2 0 mm
- * 原稿はできる限り**ワープロかパソコン**でおねがいします。
手書きの場合は、パソコンで打ち直しのため掲載が遅れる場合も出てきます。
- * E-mail での投稿は、添付ファイルで、seminary@carmel-monastery.jp宛てにお願いします。
- * 「心の泉」のコーナーについては、小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ①主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ②活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③月間、あるいは年間の具体的計画。連絡先等。

「霊性センターニュース」をご希望の方は、

下記まで、郵送ご希望の月数分×220 円を**現金**で送ってください。

佐々木茂子 〒230-0074 横浜市鶴見区北寺尾 4-21-11

Tel (045) 575-5722

献金へのお願い

「霊性センターニュース」は現在、ご希望の方へ無料で配付しております。コピー代、紙代、印刷代等、諸経費はすべてカルメル修道会が負担しております。読者のみなさまのご理解、ご協力をお願いいたします。

* 献金される方は、下記の口座へお振込みください。

郵便番号口座：00110-4-297250

加入者名：カルメル霊性センターニュース

通信欄に「霊性センターニュースへの献金」とご記入ください。

* なお上野毛教会聖堂の祭壇左側の献金口や、信徒会館の「カルメル図書コーナー」の献金口に、直接、献金して下さっても結構です。献金袋は用意されております。



編集後記

主は言われる。

「今こそ、心からわたしに立ち帰れ

断食し、泣き悲しんで。

衣を裂くのではなく、

お前たちの心を引き裂け」。(ヨエル2:12-13)

今年も四旬節を迎えた。実にキリストが世に現れたのは、人々を神に立ち返らせるため、つまり、回心させるためであった。「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」という言葉は、徴税人や娼婦たちという社会から白い目で見られていた人たちへの言葉である以上に、イスラエル社会全体へのメッセージであったはずである。

しかし、宗教的に熱心であった当時の多くの人々、律法学者やファリサイ派の人々は、自分たちは回心の必要はないと考えていたと思われる。だからこそ、衣だけ裂き、心を裂かない偽善をイエスに突かれ、彼らが忌み嫌う罪人のように見なされ、自尊心が打ち砕かれたことに憤激したのであろう。

ひるがえって、私たちはどうか。ほんとうに悔い改めた生活をしているのか。ほんとうにキリストの福音を信じているのか。ほんとうにキリストの後に従っているのか。

徴税人は遠くに立って、目を天に上げようともせず、胸を打ちながら言った。

「神様、罪人のわたしを憐れんでください」(ルカ18:13)。

(P.九里)

